

第1回 武蔵野市生涯学習計画（仮称）策定委員会会議要録

| | | |
|-----|------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 日 時 | 平成21年5月29日（金） 午後6時30分から8時30分 | |
| 会 場 | 市教育委員会室 | |
| 出席者 | 委員 （敬称略） | ◎林大樹、○倉持伸江、小町友則、白井龍男、飛山堪子、富川昌美、 渡邊一衛、萱場和裕 （◎委員長、○副委員長） |
| | 事務局 | 生涯学習スポーツ課長、スポーツ振興・国体開催準備担当副参事、 武蔵野プレイス開設準備室長、武蔵野プレイス開設準備室副参事 ほか |
| | 傍聴者 | 2名 |

【会議要録】

- 1 教育長あいさつ
- 2 委嘱状交付
- 3 生涯学習計画（仮称）策定の目的、委員会設置の趣旨説明
- 4 各委員の自己紹介
- 5 正副委員長の選出
 - （1）委員長については、武蔵野市生涯学習計画（仮称）策定委員会設置要綱第4条2項に基づき、委員の互選により林大樹委員が選出された。
 - （2）副委員長については、委員会後半の委員意見交換を経て、林委員長の指名及び委員全員に賛同により、倉持伸江委員が選出された。
- 6 議事
 - （1）協議事項
 - ① 傍聴の取り扱いについて
 - ・事務局より、委員会を原則公開とし傍聴を可とする意義及び趣旨を説明。
 - ・委員全員の賛成により、武蔵野市生涯学習計画（仮称）策定委員会傍聴要領に基づき、委員会を原則公開とすることを決定した。
 - ② 議事録の取り扱いについて
 - ・事務局より、本委員会については、毎回、委員名を記載した要録を作成し、適宜、市のホームページで公開していきたい旨を説明。
 - ・委員からは、場合によっては、委員長判断により、名前を記載せずに「委員」という表記でもよいのではないかとの意見が出たが、原則、委員名を記載した要録を公開していくことを全員で確認した。
 - ③ 生涯学習計画（仮称）策定スケジュールについて
 - ・事務局より、資料に基づき、今後の策定スケジュールを説明。

【渡邊委員】 社会教育委員との意見交換会は、策定委員会としての位置づけではなく行うものか。

【事務局】 策定委員会ではない。あくまでも意見交換の場として設定している。

(2) 報告事項

・事務局より、武蔵野市生涯学習市民意識調査について報告。

【委員長】 質問があればお願いしたい。意見については、このあとの意見交換の時間をつかって、発言をお願いしたい。

(3) 意見交換

【白井委員】 野外活動センターの事業にかかわっているが、生涯学習スポーツ課と野外活動センターのテリトリー分け（線引き）は何か。市では、似ている事業を、課ごとにバラバラにやっているという印象を受ける。

【事務局】 対象者ごとに、各課がやっているという実態はある。市関係の生涯学習事業を体系化することも、本委員会の設置目的のひとつ。

【委員長】 野外活動センターや NPO を含め、様々な取組の全体像が見えるものはないのか。

【事務局】 ない。市の財政援助出資団体を含めた実態調査を行う予定。NPO 等については、市が補助している団体についてはわかるが、すべては無理。

【小町委員】 市では、緑化関係の講座が 200 近くあると聞いている。バラバラで効率が悪いし、次のステップにつながらない。市として全体像をつかみ、（この講座の修了者は、次はどの講座で学べる等）ステップが組める体系が必要だ。生涯学習を軸としたマップができるとよい。

【渡邊委員】 マップは、3 年前の社会教育委員の会議で作成したが、そのままになっている。更新しながらベースとなるものを示せるとよい。市はいろいろやっているが、市民にはそれが見えない。生涯学習分野の「強み」「弱み」「どこが抜けているか」等を市民にわかるようにしたい。

【萱場委員】 市は必要・目的に即して、スクラップアンドビルドをしながら事業を実施しているが、職員でさえも、他課の事業は把握しづらい状況がある。この委員会で体系化し把握したい。

【渡邊委員】 市民意識調査で感じたことは、市がせっかくやっているのに、市民に情報が伝わらず残念だということ。いかに皆さんに伝えていくか、媒体（手段）を考えていきたい。また、85 ページ以降の自由意見欄は、生涯学習に興味がある方がまじめに書いて下さっているので、きちんと受け止めたい。

【委員長】 34 ページの情報入手に関する結果では、ガイドブックの希望者が多いが、回答者は市に作ってほしいという意図か。

【事務局】 「誰に」とは問うていないが、ペーパーメディアは求められている。35 ページの年代別で見ると、30 歳代まではホームページの選択が多いが、40 歳代以降は逆転している。

【富川委員】 縦割行政の弊害を感じている。武蔵野市は、自由大学や講座が充実しているが、受講者である市民は「受け身」の人が多く。私自身、エコ事業を立ち上げたが、市民協力が得られにくかった。学んだことを、

ボランティアやコミュニティ活動に活かす「誘導策」が必要だ。

- 【飛山委員】 同感。意識調査で、生涯学習の目的の第1位が「仲間づくり」となっているのは意外。高齢者の引きこもりを避けるために「いきいきセミナー」や「健康体操」などいろいろあるが、学んだ後はどうするのかとの疑問が残る。私はずっと働いて来て、退職後、自由大学で生涯学習にのめり込んだので、学んだことを何とかお返しできないかと考えている。各団体の俯瞰図があれば隙間がわかるので、その「隙間」で貢献したい。収入を得ることではなくて、次の世代に何ができるかを考えたい。現在は、中学の土曜学級の数学の補助をしている。
- 【富川委員】 60歳になったからボランティアを というのではなくて、10年くらい前からコミュニティとの関係をつくる仕組みができるとよい。ただ習うだけではなく、「一緒に行動する道筋」が、この計画で示せたらよい。
- 【渡邊委員】 生涯学習を始めるのは若い頃から、小学生からでもよい。大学の先生も土曜学校を手伝っているが、指導も学びにつながる。ボランティアをやりたい人は多い。溜まり場を作りたい。50人くらいで清掃活動をやるなど、具体化がひとつの鍵。ボランティア活動は、小・中学校にはあるが、高校が抜けている。継続性が鍵。
- 【小町委員】 ジャンボリーのサブリーダーは盛況。今年も100人以上がやっている。きっかけがあれば高校生も仲間に入ってくるし、人同士もつながる。
- 【委員長】 勤務地である国立市は若者人口が多い。故に、学生と学生以外の人の差がある。武蔵野市はどうか。
- 【富川委員】 ある。自分の活動を通して、大学にアプローチしているが、学生個人としかつながらない。〇〇君が卒業すると切れてしまうボランティア活動が多い。組織として継続するシステムが欲しい。
- 【小町委員】 市はPRが下手。市報は、時間がある人は見る媒体。PRが上手なのは（スポーツ振興事業団の広報誌）「DO SPORTS!」だ。あのようにならべて書いてあったら、重複している事業も一目瞭然だ。
- 【倉持委員】 武蔵野市は市民活動が盛んで、「学習する」ということに熱心な人が多いという印象をうけた。ただ、一方でアンケートも含め生涯学習を狭義に捉えているような気もした。他の委員の言うように受け身の人が多いのであれば、もったいない。中央教育審議会の答申に「知の循環型社会」というのがあるが、成果を活かすことは大事。学校も視野に入れて、「学ぶ」と「活動する」という両面を入れた計画にできたらよい。「情報」については、アンケートは平準化されてしまうので、市民の生の声も聞きたい。この計画では、バラバラのものを「つなぐ」ことも視野にいれていきたい。
- 【渡邊委員】 武蔵野プレイスは、情報がキーワード。発信するだけでなく、お互いにつながる場と感じている。平成23年に完成するが、ネットワーク作りも含めて、社会教育委員も期待している施設だ。

【委員長】 マップや生涯学習の体系図は絶対必要だと感じている。表面的なものではつまらないので、ただ「作る」というのではなく、「どう表現するか」がポイントだと思う。学んだ後どうするのか—という「出口」論も大切。教育委員会や生涯学習スポーツ課の範囲を超えなければ、本当に欲しい生涯学習マップにはならない。

武蔵野市は、市の輪郭が見えにくい。例えて言うなら、いろんな心臓を持った有機的な存在か。型どおりの捉え方では、この市の良さは表せない。

富川委員の「大学は、組織ではなく学生個人との結びつきになりがち」との意見は同感だ。私のいる一橋大学では、当初授業で始めたものが、学生サークルに発展し、地元の商店街の空き店舗を利用したコミュニティビジネスとして継続している。学生サークルが、自分たちで人材を勧誘しているので、サークルが続く限り、個人ではなく組織としての継続性が担保される。今年も30人ほどが入っている。

7 次回以降の日程及び会場

・日程について、以下を確認した。

第2回 6月29日（月）

第3回 7月13日（月）

第4回 9月7日（月）

・時刻については、午後7時開始。場所は、できるだけJRの駅の近くの会場とする旨を確認した。

・第2回については、施設見学（1日）を行い、これとあわせて、第2回策定委員会を開催することとした。見学場所については、配布資料を参考に、事務局一任となった。

8 閉会